

「吉澤さんに想う」

浅川囲碁同好会 南 正一郎

今月の5日、奥様より訃報をお聞きした一瞬、「だめだったか、残念無念」の想いに駆られました。八碁連にとって、ましてや小生にとってもまだまだご一緒し、教えをいただきたいお方だと常々思っていたからです。今は唯々ご冥福をお祈りするばかりです。

小生は平成26年以来八碁連執行部や日本棋院八碁連支部に関わり、吉澤さんには大変お世話になり、親しくしていただいた一人です。吉澤さんは平成23年より恩方囲碁同好会の会長に就任、平成29年八碁連副会長、30年に同会長、令和元年に同相談役に就任され、それぞれの立ち位置で立派な足跡を残されました。

恩方同好会では地域社会とのつながりを持つなか、皆で協力し合うスムーズな組織運営をされました。恩方第二小の囲碁教室の開講時には率先して駆けつけていただき、その後も講師派遣にご協力いただきました。夕やけ小やけの「おおりの家」で一泊して行う春秋親睦囲碁大会になぜか小生を特別会員として迎えて頂き、碁はそこそこに夜中の2時、3時まで皆さんと酒を飲みながら語り合ったことも鮮明に覚えています。

「活いき大会」や八碁連の大会での優勝者をお祝いする会も開催しておられ、小生も参加して皆さんと楽しく一時を過ごしました。農村環境改善センターでは級位者向けの研究会を開催しておられ、小生は別用で数回お邪魔しましたが、皆さん午前から手弁当で集まり、ピリッとした雰囲気なかで、高段者の方々を講師として勉強されている姿を拝見しました。役割分担を明確にし、これらを実践することで恩方同好会の親睦、組織強化が図られ、結果として人が集まる強い同好会に導かれたのだと思っています。



日本棋院八碁連支部は一時期、調布支部、青梅支部、入間支部と団体対

抗戦をやっていました。結果はすべて惨敗です。あるとき吉澤さんより、八碁連で強くなるための勉強会をやるうとの提案がありました。竹内朝晴氏、徳満英世氏と共に立ち上げたのが現在の囲碁研究会に引き継がれています。吉澤さんならではの局後解説は会員が最も楽しみとしていることでした。

平成 29 年に八碁連理事になられるやいなや、わずかの時間でパソコンを習得されたのにはその気概に驚き、脱帽しました。その前、竹内朝晴氏と共に理事に出馬を願った際、「恩方でまだやりたいことがある」とパソコンと言われた言葉が、それほどに恩方思いなのかと、小生の心に印象深く今でも残っています。

平成 30 年、八碁連創立 30 年の節目の年に会長に就かれ、八碁連規約第 3 条(目的)のなかに、囲碁の啓蒙と普及を加筆する積極的な姿勢を示されました。記念誌の編纂を指示され、編集委員の座長に成田滋氏を指名し、立派な「創立 30 周年記念誌」を発行されました。そのなかで、吉澤さんは八碁連の将来について、地区同好会の充実が八碁連の安定した発展につながると述べておられます。

令和元年に、それまで空席だった相談役に就任されました。小生は吉澤さんを大楽寺の御老公とお呼びしたことがあります。折にふれ八碁連への助言をいただきました。物腰が柔らかかで、静かに語るお姿、誰もが気軽に懐に飛び込めるお人柄でありました。

吉澤さん本当にありがとうございました。
どうか安らかにお休み下さい。



令和 4 年 11 月 12 日